

備前市「論語かるた」大会 中学生以上競技ルール

中学生以上の部門のルールについて説明します。

【かるたについて】

大会では、「論語かるた」（「絵札」と「字札」各44枚で1セット）を使用する。

【部門及び取札について】

- ・①中学生②一般（高校生以上）の2部門とし、2部門とも絵札を取ることとする
- ・決勝は①②部門同時に行い、各部門上位3名を表彰し、賞状と記念品を授与する。（決勝戦進出者は予選第2位までとする。）

【競技方法】

○座り方（※別紙会場図参照）

- ・（予選）競技者は、敷物の上に、かるたの絵札を重ならないよう円状（大きさはグループの任意）に広げる。原則、四角形の敷物の各辺に競技者1人ずつ、かるたを囲むように座る。
- （決勝戦）競技者は、向かい合って座る。

○札の並べ方

- ・（予選）競技者が敷物の上に、円状になるように絵札を並べる。審判は絵札の向きなどが不平等でないかを確認する。競技者任せにしない。
- （決勝戦）審判2人で並べる。
- ・並び始めてから約3分間は、記憶時間とする。

○競技開始

- ・進行係が鳴らす太鼓1打で競技を開始する。
太鼓の合図で審判は持っている白旗を下ろす。
競技者は、姿勢を正し、読み始めまで両手はひざに置く。

○札の読み方

- ・「読み手」が「から札・ひ」を2回読む。これが予告になり、1枚目の字札がまず1回読まれ（これを「本読み」と言う）競技者は、その絵札を取る。
1枚目を取った後は、1枚目の字札をもう一度読み、次の字札を読む。（字札は、取る時と取った後と2回ずつ読むことになる）。
- 「から札」も途中で読まれることがある。
競技者は絵札を探し、「はい」と言って取る。その際にとった絵札を審判員に向け、確認を得る。

○確認

- ・審判は、誰が早く取ったか、取った絵札があっているかを確認する。
取った絵札が正しい場合、審判は旗を上げる。
取った絵札が間違いの場合、間違った絵札を戻し、お手つきの競技者以外で正しい絵札を取るまで続ける。

○札の取り方

- ・絵札を取る時は、しっかり手で押さえる。絵札を飛ばしても取ったことにはならない。むやみに飛ばした場合は失格となる可能性がある。

- ・どちらが取ったかわからない場合は、審判が判断するが、判断が難しい場合、じゃんけんで勝った方が絵札を取ることができる。
- ・判定が終わるまで、旗は下げたままにしておく。

○お手つき

- ・(予選) 読まれた絵札以外に触れた場合は、「お手つき」とし、次の回は一回休み。
- ・(決勝戦) 読まれた絵札以外に触れた場合は、「お手つき」とし、自分が取った絵札の中から1枚を相手に渡す。ただし、両者が「お手つき」した場合、または取札がない場合は渡す必要はない。

○進行

- ・旗が全て上がって準備が出来ていることを確認してから、太鼓を1打する。
- ・審判は旗を下げる。読み手は、次の字札を朗読する。
- ・最後の1枚の絵札は、取らない。

○得点

- ・競技者は何枚取ったかを審判に報告し、審判は記録表に枚数を記入する。
- ・取った枚数で順位を決める。
グループは、事前に決めておく。(1回戦のみ)
- ・取札の枚数の多い順に決勝戦進出者、3位を決定する。同数の場合は、じゃんけんで決勝戦進出者、3位を決定する。(※同数の場合は決勝戦もじゃんけんとする。)
- ・本部は決勝戦進出者を確定・発表し、決勝開始時刻を知らせる。

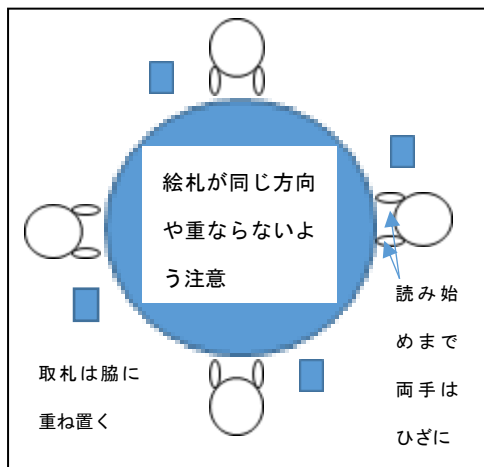
【「論語かるた」の札の読み方について《注意事項》】

- ・読むときに濁点がつくもの
「け」：げん (言) を知らざれば、以て人を知ること無し。
「こ」：ごう (剛)・毅・朴・訥、仁に近し。
「し」：じん (仁) を為すは己に由る。人に由らんや。

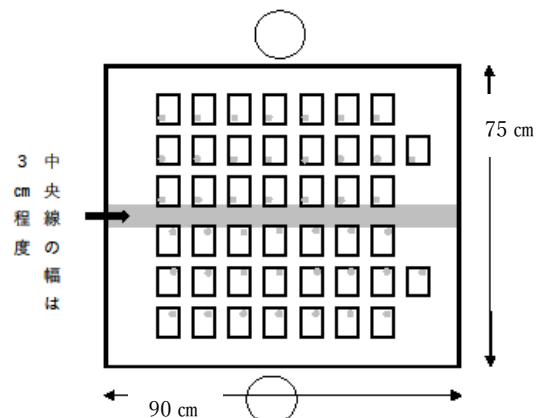
- ・字札に () がついているものは、() 内も読むので、「お手つき」に気を付ける。
「ぬ」：(ふんど (糞土) のしょうは) ぬるべからず。
「へ」：(きゅうよう (久要) は) 平生の言を忘れず。

【座り方】

(予選)



(決勝戦)



※札と札との間隔は、前後左右1cm程度